

序 説

読者の皆さまもご存じのように、2023年度より、「胃と腸」誌は年2回の増大号を発行することになった。これは、消化管疾患の診断と治療が極めて多岐にわたり、初学者のみならず経験を有する専門医にも最新の知識を系統的に提供することが重要と考えたからである。この発行形態変更に基づいて、本年2本目の増大号として『「胃と腸」式読影問題集」第2弾を皆さまにお届けしたい。前増大号『「胃と腸」式読影問題集2023 基本と応用』に引き続き、執筆者と編集部が力を込めた増大号となったことを確信している。

実は、当初の企画では前増大号を「基本編」とし、今回の増大号を「応用編」に位置付ける予定となっていた。ところが、先行の増大号で既に高い読影力が必要とする良質な問題が多数含まれていたため、本増大号ではさらにレベルの高い症例を集めて解説いただいたつもりである。すなわち、前号は読影の基本と応用力を養うための増大号であったに対し、本号は読影に加えて疾患自体に関する知識を深める増大号と理解していただければ幸いである。

臨床医学では、基本的知識だけで診断・治療を行うことは不可能であり、病歴、現症、臨床検査所見、画像所見を総合的に判断することが重要であ

る。さらに、この作業を反復することによって質の高い医療を患者に提供できるようになる。そのような過程はLC (learning curve) と呼称され、特にAI (artificial intelligence) を含む医療の世界では、このLCを効率よく向上させることが重要と考えられている。LCは学習の時間と効果の関係を表現する曲線であるが、この曲線はくせ者であり、一定の時間に達するまでは効果が現れにくく、その後急激に学習効果が上昇する。また、臨床において効率のよい学習効果を得るためにLCの曲線の形自体を変えることは困難であり、時間軸の改善、すなわち良質な学習を短時間で行うことが重要と考えられる。このような観点からも、本年の2本の増大号を繰り返し熟読いただくことで、高い学習効果、すなわち消化管の臨床力を身につけることができるであろう。

今回の問題集も、前号と同様に美しい画像に基づいて消化管腫瘍や炎症の診断がわかりやすく解説されている。その意味では「問題集」としてのみならず、「アトラス」や「用語集」の役割をも十分に果たしている。改めて出題者の先生方に感謝するとともに、消化管診療における座右の書となることを期待している。

皆さま、さあ難問にトライしてください。

岩手医科大学医学部内科学講座消化器内科分野
松本 主之